

第43回

ごはん・お米とわたし

作文・図画コンクール入賞作品集



図画1部

●山形県知事賞●

「もちつきがんばるぞ」

尾花沢市立玉野小学校2年

遠藤 嘉乃 さん



平成31年2月

山形県農業協同組合中央会・山形県農協農政対策本部



◆ごあいさつ

山形県農業協同組合中央会会長 長 澤 豊 1

◆第43回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール入賞一覧 2

◆図画部門

図画1部／山形県知事賞
山形県農業協同組合中央会会長賞 3

図画2部／山形県知事賞
山形県農業協同組合中央会会長賞 4

図画3部／山形県知事賞
山形県農業協同組合中央会会長賞 5

◆作文部門

作文1部／山形県知事賞 6
山形県農業協同組合中央会会長賞 7

作文2部／山形県知事賞 8
山形県農業協同組合中央会会長賞 9

作文3部／山形県知事賞 11
山形県農業協同組合中央会会長賞 13

◆審査講評

作文部門審査講評 山形大学附属小学校校長 佐藤 昌彦 15

図画部門審査講評 東根市立第一中学校校長 西塚 裕樹 16

◆第32回～第43回 入賞一覧 17

◆審査経過の概要 19

◆募集要領 20



ごあいさつ

山形県農業協同組合中央会

会長 長澤 豊

第四十三回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールに応募いただいた児童・生徒の皆さん、とても素晴らしい作品をありがとうございます。心からお礼申し上げます。

また、入賞された皆さん、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

私たちJAグループは、次代を担う小・中学生の皆さんに、古くから日本の食卓と国土を育んできた稲作農業、ごはん食と健康の結びつきを見直してもらうため、昭和五二年度からこのコンクールを実施しており、今年度で四十三回目を迎えます。

今回は、県内の小・中学校から作文三二六点、図画八五九点もの力作を応募いただき、全国コンクールに推薦するとともに、県コンクールにおいては、山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞、優秀賞、学校奨励賞を選考いたしました。

全国コンクールにおいては、作文部門・図画部門で優秀賞を受賞する成績を取めました。これは入賞された皆さんのご努力はもちろんのこと、ご指導いただきました学校の先生方をはじめ、ご父兄の皆様、審査委員の先生方、そして山形県ならびに各JAのご支援・ご理解の賜物と心から感謝申し上げます。

今回応募いただいた作品は、田植えや収穫作業、ごはんを作って食べる楽しさをいきいきと表現したものや、自分とごはん、家族とのつながりなどを豊かに表現したものなど、心に響く作品ばかりでした。ごはん食や農業の果たす役割の大きさ、ありがたさが素直に表現されており、日本人の生活とお米は、深く結びついていると改めて実感させられました。

どうか皆さん、普段何気なくごはんを食べることが出来る幸せを忘れないでください。また、お米をはじめとした農畜産物を作る農家の苦労や努力を感じ、感謝の気持ち大切にしてください。そして、

自然や生き物すべての命を大切にすることを、いつまでも持ち続けてください。

現在、日本は、世界中の国々と貿易を行い、食料の多くを外国から輸入しています。皆さんは、わたしたちが毎日食べている食べ物が、どこで作られたものなのか知っていますか。食べ物全体のうち、どのくらい日本国内でつくっているかを示す食料自給率は三八%であり、先進国の中では最低の水準にあります。世界的には、人口の増加により食料が足りなくなることが心配されており、それぞれの国が食料自給率を向上させることが大事なことで考えています。

私たちJAグループは、地元産をはじめとした国産農畜産物の消費拡大や皆さんの安全な食生活の確保に向けて、日本人の主食である「お米」を中心とした日本型食生活の推進、学校給食における安全・安心な農畜産物の提供、「食」と「農」の大切さを伝える食農教育の推進に向けた取り組みに一層努力してまいります。そして、農業者や地域の皆様にとつて「なくてはならないJA」となれるよう、引き続き様々な取り組みを進めてまいりますので、これからもご理解・ご協力をお願いいたします。

さて、本県産「つや姫」は、平成二二年のデビュー以来、多くの方々からご好評をいただき、皆さんにとつてもお馴染みのお米となつたことと思います。また、昨秋には「雪若丸」が本格デビューし、大変ご好評いただきました。本県では、「つや姫」や「雪若丸」のほかにも、「はえぬぎ」などのおいしいお米をたくさんつくっています。私たちは、これからも安全・安心でおいしいお米を皆さんにお届けしてまいりますので、応援をよろしくお願いいたします。

最後に、当コンクールをますます発展させていただきますよう皆様からのご協力をお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。

第43回「ごはん・お米とわたし」

作文・図画コンクール入賞一覧

(敬称略)

全国審査における入賞者

○全国優秀賞

(作文 2 部) 佐藤 柳 庄内町立余目第三小学校 6年 (図画 1 部) 遠藤 嘉乃 尾花沢市立玉野小学校 2年
(図画 2 部) 遠藤 真心 尾花沢市立玉野小学校 5年

山形県審査における入賞者

作文部門

●1部 (小1～3年)

山形県知事賞 柴田 壘 山形市立鈴川小学校 3年
山形県農協中央会会長賞 杉浦 凜 米沢市立南部小学校 2年
優 秀 賞 峯田 孝誠 米沢市立万世小学校 1年
齋藤 夢佳 村山市立楯岡小学校 1年
土田 霸瑠 村山市立楯岡小学校 2年
天野 悠都 村山市立楯岡小学校 2年
青木 舞桂 米沢市立北部小学校 2年

●2部 (小4～6年)

山形県知事賞 佐藤 柳 庄内町立余目第三小学校 6年
山形県農協中央会会長賞 原田 昊土 鶴岡市立黄金小学校 5年
優 秀 賞 安部くるみ 米沢市立興讓小学校 4年
加藤 花音 高島町立屋代小学校 5年
本間 智妃 三川町立押切小学校 6年
高橋龍之介 南陽市立萩小学校 6年
樋口 佳汰 白鷹町立鮎貝小学校 6年

●3部 (中1～3年)

山形県知事賞 手塚 大地 米沢市立第七中学校 1年
山形県農協中央会会長賞 丸谷 亮太 鶴岡市立鶴岡第三中学校 2年
優 秀 賞 伊藤 葵 川西町立川西中学校 1年
齋藤由希哉 高島町立高島中学校 2年
佐藤 弥桜 鶴岡市立朝日中学校 2年
梅本 京香 鶴岡市立鶴岡第三中学校 3年
疋田 夏海 鶴岡市立鶴岡第三中学校 3年

●学校奨励賞

村山市立楯岡小学校
川西町立川西中学校

図画部門

●1部 (小1～3年)

山形県知事賞 遠藤 嘉乃 尾花沢市立玉野小学校 2年
山形県農協中央会会長賞 佐藤 瑛太 尾花沢市立鶴子小学校 3年
優 秀 賞 安彦咲汰朗 南陽市立漆山小学校 2年
二戸 心菜 最上町立富沢小学校 2年
後藤 莉渚 尾花沢市立尾花沢小学校 2年
西塚 悠生 尾花沢市立尾花沢小学校 3年
原田 僚 尾花沢市立福原小学校 3年

●2部 (小4～6年)

山形県知事賞 遠藤 真心 尾花沢市立玉野小学校 5年
山形県農協中央会会長賞 石山 万莉 尾花沢市立宮沢小学校 6年
優 秀 賞 永沢 真彩 尾花沢市立鶴子小学校 4年
齋藤 眞輝 鶴岡市立京田小学校 5年
村上 茉生 三川町立横山小学校 5年
佐藤 結望 三川町立横山小学校 6年
高橋 伊吹 尾花沢市立玉野小学校 6年

●3部 (中1～3年)

山形県知事賞 富樫 優有 山形市立金井中学校 2年
山形県農協中央会会長賞 加藤百合亜 新庄市立萩野学園 8年
優 秀 賞 原田 陽菜 山形市立金井中学校 1年
木元素玖凜 鶴岡市立櫛引中学校 1年
藁科ひなた 米沢市立第二中学校 2年
松田 桃香 鶴岡市立櫛引中学校 3年
箱山 妃南 新庄市立萩野学園 9年

●学校奨励賞

尾花沢市立玉野小学校
山形市立金井中学校

●山形県知事賞●

「もちつきがんばるぞ」

尾花沢市立玉野小学校二年

遠藤 嘉乃

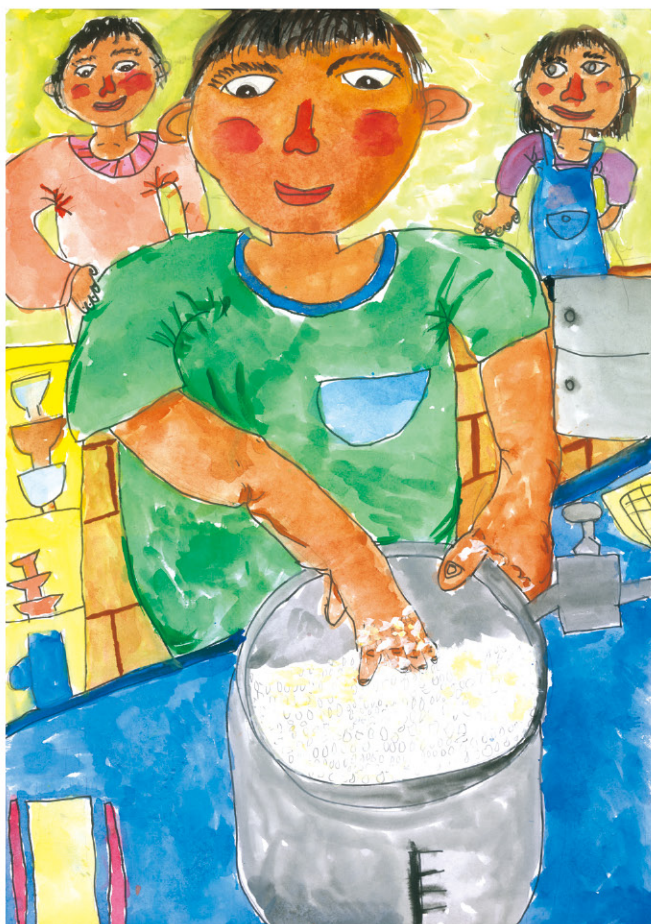


●山形県農業協同組合中央会会長賞●

「見てー！じょへずでしよ、米どぎ」

尾花沢市立鶴子小学校三年

佐藤 瑛太



●山形県知事賞●

「寒いけど楽しかった田植え」

尾花沢市立玉野小学校五年

遠藤 真心



●山形県農業協同組合中央会会長賞●

「大満足の収穫」

尾花沢市立宮沢小学校六年

石山 万莉



●山形県知事賞●

「お米の粒だけ幸せがある」

山形市立金井中学校二年

富樫 優有



●山形県農業協同組合中央会会長賞●

「故郷の田園」

新庄市荻野学園八年

加藤 百合亜



●山形県知事賞●

大すきなごはんと野球

山形市立鈴川小学校三年

柴田 壘

「野球がうまくなりたかったら、飯を食え。」

この言葉は、ぼくが所ぞくしている野球部「勝利の五かじょう」の一つです。

ぼくはしよう来、プロ野球せん手になりたいです。そのゆめをかなえるためには、毎日しっかりご飯を食べて、パワーをつけて、だれよりもたくさん練習して、体を大きくすることが大事だと、コーチに教えてもらいました。

練習が終わったあとのご飯はさい高においしいです。どんぶり茶わんにご飯を山もりにもって、おかずをのつけてもりもり食べます。つかれて帰ってきたのに、ご飯を食べ終わると、元気なぼくにもどつています。

しあいの前は、きんちようしてあまりたくさん食べられないので、お母さんがにぎってくれた小さ

いおにぎりを二こだけ食べます。おにぎりの中みは毎回ちがうので、何が入っているのかドキドキしながら食べるのが、ぼくのちよつとした楽しみです。小さいおにぎりなのに、元気になれるのがふしぎです。

ぼくが毎日食べているお米は、ぼくのじいちゃんとはあちゃんが、くろうしてそだててくれたお米です。あま味があつて、米つぶがキラキラ光っています。おかずがなくても、何はいでも食べられます。

じいちゃんとはあちゃんとは、はなれてくらししているので、よく電話をかけます。

「米は十分あるか。たりなくなったらおくるからな。いっぱい食べて野球がんばれよ。食べねば力が出ねぞ。」

と言ってくれます。とてもやさしいです。

お米を分けてくれるじいちゃんとはあちゃん。ご飯をおかわりするとほめてくれるお父さん。ご飯がすすむおかずを作ってくれるお母さん。小さい手で一生けんめいお米を洗ってくれる妹。ぼくをおうえんしてくれる家族と元気をくれるお米に、これからも「ありがとう」の気持ちをおすれずになりたいです。

●山形県農業協同組合中央会会長賞●

わたしがといだおこめ

米沢市立南部小学校二年

杉浦 凜

まい日、わたしはごはんの時、おさらはこびと、おはしならべをお手つだいでいます。テーブルには、おばあちゃんやおかあさんがつくったごはんがおいしそうにならんでいます。早くたべたいのと、おいしそうなのはんが、はなやかで、もっとおいしそうに見えるように、きれいにおさらとおはしをならべています。

おかあさんのおしごとが休みの日、「今日、いっしょにカレーをつくらう。」と、言いました。おかあさんとおりょうりするところが、ひきしぶりだったのでうれしかったです。

まず、はじめにごはんのじゅんびです。おこめをとぐのは、この時がはじめてでした。おこめをはかつて水でとぎました。おこめをやさしくといでいたら、わたしがおこめにマッサージされてるみたいで、

気もちよかったです。だからわたしも、おこめがおいしいごはんになるように、やさしくマッサージしてあげながら、とぎました。

すいはんきに、おこめとお水を入れてスイッチオン。あとは、やさいのかわをむいて、切ったり、お肉をいためて、カレーをつくりました。とてもおいしそうです。その時、

「ピーッ。」と、ちょうど、ごはんもでき上がりました。

お父さんとおばあちゃんが、かえってきて、ごはんになりました。スプーンとおさら、そして、わたしがつくったカレーをならべます。いつもよりも、ワクワクしていました。

「これ、凜つくったの？すごくおいしい。」と、みんなびっくりしていました。

「いつもより、ごはんあまい。なんで？」

と、お父さんが、ふしぎそうにしていました。

「おこめをマッサージしてあげたんだよ。」

と、わたしが言いました。おさらはこびのほかに、お手つだいたいことがふえました。

●山形県知事賞●

ぼくは農家の九代目

庄内町立余目第三小学校六年

佐藤 椰

「ぼくは農家の長男だからさ。」
四年生の春、田植えの手伝いをした時にぼくが言った言葉です。その時、家族みんながおどろいて、母は「椰が家のことを考えてくれていたなんて頼もしいな。」と思ったそうです。

ぼくの家は八人家族です。曾祖父母と祖父母と父母とぼくと一才の弟です。ぼくの家は代々農家で、今、米作りの中心は祖父です。

曾祖父が米作りを始めた頃は全て手作業で、クワという道具を使って田を起こし、だんだん馬にスキを付けて田を起こしたり、代かきをするようになったそうです。なえは全部手で植えて、草がはえると、除草機という道具を使って草取りをしていたそうです。ぼくは広い田んぼの草かりは大変そうだと思いますが、曾祖父はたくさ

んの米を収穫したいという思いで米作りにはげんだそうです。曾祖父は米作りが機械化されてきたことを機会に、祖父に米作りをまかせたそうです。

祖父は二十代で曾祖父から米作りを受けつぎました。祖父に米作りの苦勞を聞くと、

「おいしい米作りを大切な仕事と思い、苦勞という気持ちはなかった。」

と話してくれました。そして、

「ササニシキは育てるのが難しい米で、稲の生長調整をしながら、いかに稲が倒れないようにするか工夫するのが大変なんだ。」

と楽しそうに教えてくれました。祖父の米作りは挑戦の連続なんだと思いました。祖父は暑い夏にも田んぼの水の調節や草取りをがんばっています。米を買って食べてくれる人のために、なるべく農薬を使わない米作りを心がけているからです。田んぼから汗だくで帰ってきていても辛そうな顔ではなく、活き活きとしていてぼくには楽しそうに見えます。祖父の米作りに、たくさんの工夫と思いが込められていることをぼくは知りました。父も祖父の米作りに取り組む姿を見て、

農業に関係する仕事につきたいと思ったそうです。

ぼくは三年生の頃から田植えを手伝っています。四年生の春の田植えでは、父が田植機、祖父が田んぼをならして、ぼくが手植えをしました。気づいたら親子三代で田植えをしていました。ぼくはなんだか家族の一員としてほこらしい気持ちになりました。はだしで田んぼに入るとぬるぬるして足がちよつとずつしずんで冷たくて気持ちよかったです。稲を三、四本持つてどろにさすように植えました。ポチャン、ポチャン。ぼくが手で植える音がひびいてたった一列植えるのに、午前中いっぱいかかりました。祖父ならもつとどんな植えることができるだろうと思いました。実際やってみて大変さが身にしみました。祖父や父が活き活きと米作りをしている姿を見てると、ぼくも農業をやってみたいと思いました。祖父が米作りを楽しんでいるように、おいしい米になるか楽しみながら米を作ってみたいです。ぼくは農家の九代目です。

●山形県農業協同組合中央会会長賞●

いつかはぼくも

鶴岡市立黄金小学校五年

原田 昊土

「おれ、農家になる！」

ぼくは、二才ごろからこう言い始めたらしい。大好きなじいちゃんが、すごく楽しそうに農業をしていたからだ。

ぼくのじいちゃんは、何でも上手い。料理長もやっていたことがあるから、おいしい物にくわしい。そのじいちゃんが作るから、米も野菜もとてもおいしい。特に米作りでは、一等米を作って表彰されたこともある。

じいちゃんの作る米は、真っ白ツヤツヤで、食べるとモチモチ。白飯だけで何杯でも食べられる。その上、じいちゃんの野菜で作ったおかずもならばから、食事の時間が楽しみだった。

ぼくのじいちゃんはいつも優しくて

「おれさも、やらせて！」

と頼むと、

「わがった。」

と言って、危なくないことはさせてくれた。だから、ぼくはどこにでもついて行った。小学校に入學する前でも、田植え機と一緒に乗って、苗が少なくなるとじいちゃんに知らせていた。できることはまだ少なかつたけれど、じいちゃんからは、「ありがとう。」

と喜ばれた。だから、ぼくはそね運びをしたり、均しをしたりして、毎年のように手伝った。

じいちゃんは何でもできることは一人でやった。だから、ぼくは、それを見ていろんなことを覚えた。田の水入れや水抜きもじいちゃんに指示してもらえばできるようになった。すまこ刈りもまかせてもらえるようにもなった。ぼくはうれしくて、稲刈りの日は学校から帰るとすぐに、自転車で田に向かった。毎年、稲刈りは楽しみだった。

「今年は、うめ米できた。」

とじいちゃんが新米を食べさせてくれた。

最後にじいちゃんと一緒に米作りができたのは、三年生の時だった。お父さんと親せきのおじいさ

んも一緒に田植えをしてくれた。ぼくは全然知らなかつたけれど、そのころ少しじいちゃんは具合が悪かつたらしい。でもぼくの前では、いつも通りの元気なじいちゃんだった。今まで忙しくてできなかったお父さんも一緒だったから、いつもよりにぎやかな田植えだった。稲刈りのころには、じいちゃんは入院していたけれど、ぼくはすまこ刈りをしてできることは手伝った。

「農業は生きがいだから、できるところまでやりでえ。」

とじいちゃんは言っていたそうだ。最後まであきらめないじいちゃんらしい言葉だ。

今年、総合で田植えや稲刈り体験をして、一生懸命に農作業しているじいちゃんを思い出した。二年ぶりにやって、ぼくはやっぱり農作業は楽しいと思つた。いつかはぼくも、じいちゃんみたいにおいしい米を作りたい！



●山形県知事賞●

お米がくれるパワー

米沢市立第七中学校一年

手塚 大地

僕はパンが好きだ。色々な種類のパンがある。ソーセージが入ったパンやあんパン、カレーパンなど、たくさんおいしいパンがある。その中でも僕は特にベーグルが好きだ。なぜなら、もちもちしておいしいし、切って間に色々な食材をはさめるし、ベーグル自体も、ごまが入っていたり、くるみが入っていたり、フルーツが入っていたりいろんな種類があっっておいしく、選ぶ楽しみがあるのが好きだ。

今まではご飯よりパン派だった。朝食もパンが多かったし、夏などは暑くて食欲がなく、パンや、シリアルを食べることが多かった。今考えてみると、バランスの悪い食事だったと思う。

僕は今年の四月から、広幡から上郷へ引つ

こしてきた。祖父の家のとなりに暮らしている。すぐとなりに住んでいるので、毎日の食事はみんなと一緒に食べている。父が単身ふにん中なので、普段は、五人で食事をし、父が帰ってくる、六人で食事をしている。今はそれまでとは、食事の内容が変わった。祖父母が一緒なので、自然とご飯がメインの生活になったのだ。食事をする家族の人数が増えたので、たくさんご飯をたき、おかずも和食が多くなった。最初はパンも食べたいなあと思った。だが、僕は、四月から中学生となり、自転車です五分かけて、通学している。部活動も始まり、卓球部で活動している。運動量が小学生の頃と比べて、倍になった。僕の胃はご飯を欲するようになった。パンも好きだし、おいしいのだが、どうしても、お昼までもたない。お腹がすいてしまうのだ。ご飯を食べないと、力が出ない事に気が付いた。それから自然とパンからご飯へ好みが変わっていった。

祖父母が農家をしており、お米や野菜は、自分の田んぼや畑で作っている。いろいろな種類の野菜を作っている。そしてたくさん食べ

て、大きくなってほしいと野菜やご飯をたくさん用意してくれる。いつも気にかけてくれて祖父母や母に感謝している。ご飯食に変わったことで、変わったことがある。まず、おかずやみそ汁もきちんと食べるようになった。野菜も畑から取ってこれるので、いろいろな種類の新鮮な野菜を使った料理が食べられるようになった。そして、今まであまり食べなかった漬物や煮物も食べるようになった。ご飯が僕の力の源になっていると感じている。ご飯もつや姫や、華の舞、コシヒカリなど、祖父母が、作っているいろんな品種のお米を味わうことができる。僕はつや姫が好きだ。なぜなら、もちもちしていて、冷めてもおいしいからだ。お米がおいしいと、おかずをもりもり食べられる。

僕は今、成長期なので、すぐお腹がすく。食べたらすぐに体の栄養となり、体の成長につながっている気がする。実際に、入学した時から、身長はぐんぐん伸びているし、筋肉もついてきた。体重も少し増えた。今ではあまり、食事について考えることはなかったが、祖父母

達と一緒にご飯を食べることで、僕は健康で元気な体になっていくことに気が付いた。穫れたての野菜と祖父母が苦勞して作っているお米のおかげだ。ご飯をたくさん食べるようになって、肉や魚だけでなく、野菜もバランスよく食べるようになった。

僕はこれからもっと部活動の卓球で活やくなりたいと思う。そのために、ご飯を食べて強くなりたい。そして、いつもおいしいお米や野菜を作っている祖父母、料理を作っている母、仕事を頑張って応援してくれる父達に感謝を忘れず、部活や勉強に励めるように、食事を大事にし、ご飯食のパワーで頑張っていきたい。



●山形県農協中央会会長賞●

米一粒一粒の誇り

鶴岡市立鶴岡第三中学校二年

丸谷 亮太

僕は山に登ります。夏休み中にはキャンプをしながら一週間かけて山に登ることもあります。長期間の登山で課題になるのが食事の内容です。山では一週間ほど食材をザックに入れて持ち歩きます。水も最低限に抑えて使います。持っていく食材は、軽いこと・常温で長期間保存できること・エネルギーになることが必要です。インスタントラーメンやレトルト食品を持っていくこともあります。味が飽きてしまうし、疲れ切っている時は食欲もなく、油物は食べる気がしません。だから僕は、炭水化物の中では米が最適だと思っています。飽きずに毎日でも食べられる米。たくさん炊いたらおにぎりにして行動食として持ち運べば良し。しかも無洗米なら研ぐ必要も

なく環境にも優しい食材です。

今年の六月、僕は

「JA鶴岡もんとあぐる白山店」

という産直で職場体験をしました。そこには朝からたくさん生産者の方が取れたての野菜や花を持ち込んでいました。ただ持ち込むだけでなく、野菜の調理方法を書いたレシピを貼ったり、実際に試食してもらったり、自分たちが育てた野菜をよりおいしく食べてもらいたいという情熱や生産した野菜への自信と誇りを感じました。そこでの僕の仕事は、精米した米を袋詰めすることでした。朝からずっと同じ作業をくり返していると、初めは「米をこぼさないように慎重にやろう。」

と違って丁寧に袋詰めしていましたが、慣れてくると何粒かの米を落としてしまうようになりました。

「これぐらいだったらいいかな・・・」

そう思っていると、

「こら、大事な米、一粒も無駄にするなよ」

という声が聞こえてきました。生産者のおじさんでした。

「すみません！」

そう謝ってすぐに米粒を拾っている僕に、おじさんはこんな話をしてくれました。

「米っていう字を分解すると八十八ってなるごど知ってるが？これはよ、米は収穫するまでに八十八回も手間をかけるってことだぞ。種を蒔いてから収穫するまで八十八回、実際にはそれ以上に手間をかけて作るのが米だ。雑草を取ったり、病気を心配したり、害虫を退治したり、特に水の管理さは気を配る。夏場は、毎日田んぼを見て回って育てて、収穫するのだ。だから、米の一粒一粒も大事にして、鶴岡の米みたいに粘り強い人さなれよ。」

そう言っておじさんは帰っていききました。僕は、幼稚園の時と小学五年の時に田植えから稲刈り、脱穀まで経験した時のことを思い出しました。土をつくり、塩水選でもみを選び、虫や鳥、自然災害から田んぼを守り、収穫しました。脱穀の時はズボンのすそにもみが入っていないか何度も確認しました。それほど一粒の米が大切だったからです。

そんなことを思い出しているうちに、少し僕にもわかってきました。鶴岡には栄養豊富な土ときれいな水があります。そして、手間暇かけて大切に米を育てている生産者がいます。自信が持てる環境で自信をもって育てられた米は鶴岡の誇りです。消費者であるぼくたちは、そのことをきちんと理解して、一粒一粒大切に食べる責任があります。僕は袋詰め作業をやりながら、おじさんから教えてもらったことをもう一度考えていました。

僕は山に登ります。将来は海外の山にも登ってみようと思っています。食事は軽くて、手軽で、便利なものになるでしょう。でも僕はきつと、米を持って行きます。米は最高の炭水化物です。米には生産者の方々の自信が詰まっています。そして日本人の誇りも詰まっています。

「米を食べれば粘り強い人になれる。」

どこの国に行っても自信を持って日本の米を庄内の米を紹介していきます。

第四十三回「ごはん・お米とわたし」作文コンクールには、全国の小・中学校から五万二千八百十二点、県内では三百十六点という多くの作品が寄せられました。

「米作り」や「米飯」を生活の一部ととらえ、お米と自分のつながりに加えて、それを通して温かな人との関わりを豊かに描いた作品ばかりでした。もう一つの特長として、おじいさん、おばあさんの登場する作品が多く、その生き方がとても魅力的に表現されています。米処であり三世代同居率日本一の山形県の魅力が、随所に表現されていました。

そうした優れた作品の中から、全国のコングレで優秀賞となった作品を始め、県審査において、山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞、県優秀賞、県学校奨励賞の各賞が選考されました。ここでは、県知事賞、県農業協同組合中央会会長賞を受賞された作品を紹介します。

一部(小学校一年生から三年生)

○「大すぎなごはん」と野球」

(山形市立鈴川小学校三年 柴田 壘 山形県知事賞)

書き出の野球部「勝利の五か条」が米の持つパワーを強く印象付け、とても効果的です。壘さんが試合後にご飯をもりもり食べる姿や、試合前に緊張しながらもおにぎりを食べ、お米から元気をもらう様子が目に浮かびます。米作りをしている祖父の「食べねば力が出ねぞ。」というアドバイス、米とぎをしてくれる妹……家族みんながお米を通して壘さんを応援し、それに感謝の気持ちを持つ壘さんの気持ち、さわやかに描かれています。

○「わたしがといだおこめ」

(米沢市立南部小学校二年 杉浦 凜 山形県農業協同組合中央会会長賞)

初めての米とぎ。「わたしがおこめにマッサージされてみたい」「わたしもおいしいごはんになるようにお米をマッサージしてあげながら」と、お米と対話しながら食事のお手伝いをする様子に、お米を大切にしようとする思いが感じられます。視覚・触覚・聴覚・味覚など、五感にうったえる描写が随所に見られ、お米を囲んだ家族の明るく楽しい食卓の様子や、米とぎが上手にできた凜さんの心の成長が感じられる終末の表現にも好感が持てます。

二部(小学校四年生から六年生)

○「ぼくは農家の九代目」

(庄内町立余目第三小学校六年 佐藤 柎 全国優秀賞・山形県知事賞)
代々続いてきた農家の仕事へ馳せた思いがとてよく伝わってくる作品

です。田んぼに裸足で入ったときの感触、まわりに響く田植えの音など、家で田植えをした経験も、生き生きとした表現で語られています。米作りの技術だけでなく、食べてくれる人への思いや、米作りの大変さ、真剣に仕事に向かう姿勢などが、柎さんへ受け継がれていく素晴らしい胸が打たれます。農家の九代目の柎さんを応援したい気持ちになります。

○「いつかはぼくも」

(鶴岡市立黄金小学校五年 原田 昊土 山形県農業協同組合中央会会長賞)

農業を生き甲斐だと言って、生き生きとそして粘り強く米作りに取り組むおじいさんの魅力が、とてもよく伝わってきます。そのおじいさんと一緒に米作りに取り組んだ一年間の体験が、昊土さんの成長の軌跡として、短い文でリズムよく書かれています。また、タイトルにもなっている『いつかはぼくも』という、おじいさんの意思を受け継いでいこうという昊土さんの強い思いが、作品全体を貫いており、読み手の心に響いてくる作品になっています。

三部(中学生)

○「お米がくれるパワー」

(米沢市立第七中学校一年 手塚大地 山形県知事賞)

「僕はパンが好きだ。」という意表を突く書き出しが、目を引きまします。祖父の家の隣に引越したことを機に、パンからご飯へと食の好みが変わっていき、様子が丁寧に書かれています。特に、農家を営む家庭での、旬の野菜を豊かに使った食卓の様子や、中学生になり、これまでとは違う空腹感を覚えたことが、生き生きと伝わってきました。健康で元気な体は、食生活が基盤であるということ、身をもって実感しており、素晴らしいと思います。

○「米一粒一粒の誇り」

(鶴岡市立鶴岡第三中学校二年 丸谷亮太 山形県農業協同組合中央会会長賞)

キャンプをしながら一週間かけて山に登った経験をもとに、長期間の登山に持参する食材として、米が適切であることを主張しています。実体験を根拠に述べているため、説得力がありました。職場体験で、米の生産者であるおじいさんの言葉を聞き、生産者の思いや消費者の責任について考えを深めています。恵まれた土壌と綺麗な水からできた鶴岡の米を背負って、海外の山を歩く未来の姿が見えるようで、爽やかな気持ちになりました。

県学校奨励賞

今年度の山形県学校奨励賞は、村山市立楯岡小学校と川西町立川西中学校が受賞されました。

第四十三回「ごはん・お米とわたし」図画コンクールには、全国の小・中学校から六万五千七百七十八点もの作品が寄せられました。山形県からは、八百五十九点の作品の応募がありました。

新しい時代を担う小中学生のみなさんが、ふるさと山形の豊かな自然と食文化、あたたかい家族との絆の中でいただくごはん、日本の農業について体験したことや感動したことを描いた作品が多くありました。家族で囲む食卓に、あたたかいごはんや笑顔があふれる暮らしは、どんなに幸せなことでしょう。素直な気持ちで描いた二つ二つの作品から、子どもたちの笑顔といのちが輝く感動にたくさん出会うことができました。

それらの作品の中で、全国審査において二点が優秀賞に輝きました。また、県審査では、山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞、県優秀賞、県学校奨励賞の各賞が選考されました。ここでは、県知事賞、県農業協同組合中央会会長賞を受賞されたみなさんの作品を紹介します。

一部(小学校一年生から三年生)

○「もちつき がんばるぞ」

(尾花沢市立玉野小学校二年 遠藤嘉乃 全国優秀賞・山形県知事賞)

勢いよくきねを振り上げて、力いっぱいもちをついている様子をのびのびと描いています。元気なかけ声まで聞こえてきそうな躍動感のある作品になっています。木造のランチルームも温かみがあり、楽しかった思い出がよく伝わってくる作品です。勢いのあるタッチで、もちつきの活気ある様子を一気に描き上げています。

○「見て！じょうずでしょ米とぎ」

(尾花沢市立鶴子小学校三年 佐藤瑛太 山形県農業協同組合中央会会長賞)

米とぎができるようになって誇らしげなぼくと、後ろで見守る家族の温かいまなざしが、印象的な作品です。ぼくが一生懸命といたお米、ぼくも家族もひとときわおおいしかったことでしょうか。お米一粒一粒でいねいに描き、手についたお米の感じまでよく表現しています。画面全体を明るいい色調で描いており、楽しい家族の雰囲気までよく伝わってきます。

二部(小学校四年生から六年生)

○「寒いけど楽しかった田植え」

(尾花沢市立玉野小学校五年 遠藤真心 全国優秀賞・山形県知事賞)

苗を大事に手にとり、腰を低くしていねいに植えているところをよく描いています。透き通る冷たい水の表し方も見事で季節感を感じます。水面に映る空や自分の姿を見ながら、熱心に描いている様子が伝わってくるようです。絵の具を溶く水の加減、にじみやぼかし、色を重ねるなどの多様な表現をうまく使っていてすばらしい作品になっています。

○「大満足の収穫」

(尾花沢市立宮沢小学校六年 石山万莉 山形県農業協同組合中央会会長賞)

たわわに実った稲を両手に抱え、稲穂を画面いっぱいに描いていることで、収穫した喜びがよく伝わってきます。視線の先には稲刈り機を運転する人がいて、まるで収穫の喜びを分かち合っているようです。稲の黄色が実に鮮やかで、とても華やかな感じがします。配色もよく考えられ、工夫されたとてもいい作品です。

三部(中学生)

○「お米の粒だけ幸せがある」

(山形市立金井中学校二年 富樫優有 山形県知事賞)

新しく誕生した家族のために、親子でお祝いのごはんをつくっています。小さな生命の誕生は、家族にとって最高の喜びであり、幸せそのものです。題名「お米の粒だけ幸せがある」には、この子の未来も明るく輝くようにとの願いが込められているようです。家族の絆が結ぶごはんのある温かい情景が目には浮かびます。豊かな表現力で、二年連続の県知事賞は見事です。

○「故郷の田園」

(新庄市立萩野学園八年 加藤百合亜 山形県農業協同組合中央会会長賞)

夏を迎えたふるさととの広々とした田園風景を見事に描き切っています。カーブミラーに映り込んだビニールハウスや周辺の景色がとても効果的に画面を構成しています。作者のふるさとに対する思いがよく伝わってきて、秋の爽りへの期待と感謝でいっぱい作品です。

県学校奨励賞

今年度の山形県学校奨励賞は、尾花沢市立玉野小学校と山形市立金井中学校が受賞されました。

「こほん・お米とわたし」作文・図画コンクール 第32回〜第43回 入賞一覧

作文部門 図画部門

第37回	第36回	第35回	第34回	第33回	第32回
<p>山形県</p> <p>●県知事賞 伊藤 風牙(鶴岡市) 井上 瑞貴(山形市) 松畚 大吾(米沢市)</p> <p>●県中央会会長賞 佐竹 巧(山形市) 笹本 悠奈(庄内町) 我妻隆太郎(米沢市)</p> <p>●優秀賞 早坂 大翔(大蔵村) 朝倉 愛子(南陽市) 丸山 美優(鶴岡市) 渋谷 結(鶴岡市) 佐藤 光(鶴岡市) 池田 結(庄内町) 會田 空翔(山形市) 森 優奈(米沢市) 佐藤みのり(庄内町) 齋藤 結月(鶴岡市) 須貝 麗夢(米沢市) 小野寺拓海(鶴岡市) 高内 滯奈(山形市) 井上 れな(鶴岡市) 遠藤 美月(鶴岡市)</p> <p>●学校奨励賞 鶴岡市立朝日小学校 米沢市立第四中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 五十嵐まりあ(山形市) 土門 亮(天童市) 早川 舞乃(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 大滝 楓人(鶴岡市) 伊藤 琉圭(鶴岡市) 阿部 咲輝(鶴岡市)</p> <p>●優秀賞 森 壮汰(村山市) 安達 涼乃(大石田町) 阿部 夢叶(最上町) 横山 陽音(米沢市) 大滝 星矢(鶴岡市) 細矢 愛結(村山市) 矢萩 優生(村山市) 曾根 匠人(米沢市) 佐藤 亜美(鶴岡市) 渡部さくら(鶴岡市) 太田 里美(米沢市) 渡部 羅夢(鶴岡市) 森谷 咲耶(東根市) 舟山 愛理(米沢市) 中村梨恵子(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 鶴岡市立朝日大泉小学校 鶴岡市立朝日中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 寺峯亜寿美(大石田町) 工藤 暢晃(庄内町) 小野 茜(朝日町)</p> <p>●県中央会会長賞 佐藤 流偉(鶴岡市) 菅原彩花里(鶴岡市) 菅井 滯(朝日町)</p> <p>●優秀賞 後藤 美空(米沢市) 菅原 菜央(鶴岡市) 鈴木 駿佑(大石田町) 會田 空翔(山形市) 鈴木 花凛(米沢市) 伊藤南奈美(鶴岡市) 長沼龍之介(高島町) 齊藤 健(真室川町) 齋藤 元希(大石田町) 小林 一樹(寒河江市) 井上 玲(米沢市) 大橋 鉄郎(米沢市) 坂野 涼子(米沢市) 江部ひふみ(米沢市) 香澤 佑樹(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 大石田町立大石田小学校 朝日町立朝日中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 伊藤南奈美(鶴岡市) 難波 葵(鶴岡市) 平山 美紀(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 今野 杏唯(鶴岡市) 菅 瑞季(最上町) 白石みおり(米沢市)</p> <p>●優秀賞 原田 真白(米沢市) 會田 空翔(山形市) 押切 真依(最上町) 後藤 大空(米沢市) 押野 明純(鶴岡市) 高橋 歩美(高島町) 阿部 杏香(鶴岡市) 安部 航大(高島町) 近藤 舞(鶴岡市) 山下 純平(最上町) 渡藤 ゆい(鶴岡市) 遠藤 加菜(米沢市) 高橋 奏(米沢市) 山口 大智(南陽市) 我妻 隆羅(米沢市)</p> <p>●学校奨励賞 鶴岡市立朝日小学校 鶴岡市立朝日中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 鈴木 彩(鶴岡市) 井上 秀香(真室川町) 山口 まの(鶴岡市) 伊藤南奈美(鶴岡市) 渡部 寿彦(鶴岡市) 黒井 紀香(鶴岡市) 瀬川 隼矢(庄内町) 金野 華奈(鶴岡市) 保科 拓也(鶴岡市) 尾形 有生(米沢市) 進藤小百合(米沢市) 小野寺奈々(鶴岡市) 安達 景都(鶴岡市) 小野寺千尋(鶴岡市) 小野寺陽奈(鶴岡市) 佐藤 理奈(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 鶴岡市立斎小学校 鶴岡市立朝日中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 瀬川 隼矢(庄内町) 河野 美彩(鶴岡市) 佐藤 楓(鶴岡市)</p> <p>●県中央会会長賞 後藤 怜(最上町) 上野 艦(鶴岡市) 山口 和華(天童市)</p> <p>●優秀賞 渡部 寿彦(鶴岡市) 笠原妃奈乃(最上町) 伊藤南奈美(鶴岡市) 結城 諒(最上町) 佐藤麻捺夏(鶴岡市) 五十嵐春奈(最上町) 阿部紗世子(最上町) 菅 風沙(最上町) 引地加奈恵(最上町) 齋藤 央奈(山形市) 櫻井 祥太(山形市) 山口 愛実(南陽市) 久保 朝香(米沢市) 橋本明香里(山形市) 伊藤 香理(鶴岡市)</p> <p>●学校奨励賞 最上町立向町小学校 鶴岡市立第五中学校</p>
<p>全国</p> <p>●優秀賞 伊藤 風牙(鶴岡市) 井上 瑞貴(米沢市) 松畚 大吾(米沢市)</p>	<p>全国</p> <p>●文部科学大臣賞 小林 千紗(高島町)</p> <p>●優秀賞 五十嵐まりあ(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 高島町立第二中学校</p>	<p>全国</p> <p>●文部科学大臣賞 瀬川 隼矢(庄内町)</p> <p>●農林水産大臣賞 石森 泉(鶴岡市)</p> <p>●学校奨励賞 庄内町立余日第四小学校 鶴岡市立鶴岡第四中学校</p>	<p>全国</p> <p>●農林水産大臣賞 齋藤 隼也(鶴岡市)</p> <p>●学校奨励賞 鶴岡市立西郷小学校</p> <p>●優秀賞 白石みおり(米沢市) 平山 美紀(山形市)</p>	<p>全国</p> <p>●優秀賞 鈴木 彩(鶴岡市)</p>	<p>全国</p> <p>●文部科学大臣賞 金野 華奈(鶴岡市)</p> <p>●全国中央会会長賞 高橋 理久(村山市)</p> <p>●学校奨励賞 鶴岡市立羽黒第三小学校</p> <p>●優秀賞 佐藤 楓(鶴岡市)</p>
<p>山形県</p> <p>●県知事賞 押切 零旺(尾花沢市) 渡辺 成美(尾花沢市) 高橋 綾香(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 渡會 圭悟(尾花沢市) 日下 和也(高島町) 竹田夏奈子(山形市)</p> <p>●優秀賞 三浦 匠悟(尾花沢市) 小林 由佑(尾花沢市) 伊藤 拓磨(尾花沢市) 西尾 真央(尾花沢市) 叶野 空和(鶴岡市) 長永 千佳(庄内町) 吉田京次郎(山形市) 柴田 唯吐(天童市) 砂田 千夢(鶴岡市) 東海林玲奈(尾花沢市) 平間 杏奈(山形市) 秋葉ひなの(山形市) 渡邊 美佑(山形市) 平吹 百恵(山形市) 鎌田美乃里(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 尾花沢市立福原中部小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 齋藤 匠(東根市) 溝越 真輝(尾花沢市) 大滝 日菜(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 星川 悠人(尾花沢市) 小幡 あみ(尾花沢市) 半田さつき(山形市)</p> <p>●優秀賞 越前 快斗(尾花沢市) 尾崎 李果(尾花沢市) 笹原 優極(尾花沢市) 叶野 空和(鶴岡市) 宇田 竜健(庄内町) 東海林玲奈(尾花沢市) 本間 海成(尾花沢市) 小幡 圭佑(尾花沢市) 三浦 幸司(尾花沢市) 佐藤 俊貴(鶴岡市) 進藤 優(山形市) 梅木 泉美(山形市) 高橋 真優(山形市) 横沢 美玖(山形市) 齋藤 光(南陽市)</p> <p>●学校奨励賞 尾花沢市立福原中部小学校 山形市立第九中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 柴崎 真人(最上町) 森谷 康平(山形市) 原田 拓豪(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 加賀 悠大(鶴岡市) 小幡 圭佑(尾花沢市) 荒井瑛絵子(山形市)</p> <p>●優秀賞 高橋 龍馬(大石田町) 鈴木 来春(尾花沢市) 笹原 実莉(尾花沢市) 五十嵐一樹(尾花沢市) 西塚 優太(尾花沢市) 星 竜成(米沢市) 佐藤 一貴(天童市) 五十嵐友寿(鶴岡市) 佐藤 俊貴(鶴岡市) 押野 尚道(鶴岡市) 大滝 日菜(山形市) 高橋 里沙(山形市) 吉田 心(山形市) 遠藤 千央(山形市) 鈴木 里奈(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 鶴岡市立朝陽第二小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 丹波 優大(尾花沢市) 森谷 康平(山形市) 鈴木 智佳(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 菅 佑菜(最上町) 小幡 剛(尾花沢市) 武田可奈子(山形市)</p> <p>●優秀賞 伊藤日向子(鶴岡市) 廣瀬 佳那(尾花沢市) 平井 堅太(高島町) 宮崎 泰成(鶴岡市) 西尾 文佳(尾花沢市) 海谷 有美(高島町) 佐賀井千里(鶴岡市) 高橋 捷(尾花沢市) 今野杏有子(三川町) 前田 和哉(鶴岡市) 荒井瑛絵子(山形市) 田中 敦子(山形市) 阿部 浩宜(山形市) 岸 由麻(山形市) 三浦 彩希(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 尾花沢市立尾花沢小学校 山形市立第九中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 阿部 篤(尾花沢市) 會田 次郎(山形市) 武田可奈子(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 菅野 颯(尾花沢市) 押野 尚道(鶴岡市) 岡部 咲(酒田市)</p> <p>●優秀賞 島津 諒(高島町) 加藤 翔龍(尾花沢市) 佐藤 愛竜(尾花沢市) 藤井美名保(尾花沢市) 佐藤 崇人(鶴岡市) 伊藤 陸(天童市) 今野杏有子(三川町) 藤田 麗(鶴岡市) 井上 和也(尾花沢市) 伊藤 浩司(鶴岡市) 佐藤 緑(山形市) 渡邊 千咲(山形市) 上林 穂末(山形市) 鈴木 里奈(山形市) 加地 明里(米沢市)</p> <p>●学校奨励賞 尾花沢市立明德小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 佐藤 永一(尾花沢市) 花山 伶奈(寒河江市) 堀野 佑衣(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 森谷 康平(山形市) 伊藤 浩司(鶴岡市) 垂石 杏(山形市)</p> <p>●優秀賞 三澤 悠花(尾花沢市) 鈴木 芹奈(鶴岡市) 本間 智広(尾花沢市) 押野 尚道(鶴岡市) 吉田 周平(尾花沢市) 森 謙太(尾花沢市) 原田 紘(高島町) 菅野 静香(尾花沢市) 香澤 佑樹(山形市) 丸田 駿平(尾花沢市) 羽角 緑(山形市) 島津 桃子(米沢市) 石井 志織(山形市) 橋本明香里(山形市) 中村 実那(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 寒河江市立醍醐小学校 山形市立金井中学校</p>
<p>全国</p> <p>●農林水産大臣賞 志田 葉月(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 山形市立第九中学校</p>	<p>全国</p> <p>●優秀賞 半田さつき(山形市)</p>	<p>全国</p> <p>●農林水産大臣賞 西田 知世(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 山形市立第九中学校</p>	<p>全国</p> <p>●農林水産大臣賞 會田 三郎(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 山形市立南小学校</p> <p>●優秀賞 鈴木 智佳(山形市)</p>	<p>全国</p> <p>●内閣総理大臣賞 粟野 梨恵(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 山形市立第九中学校</p> <p>●優秀賞 會田 次郎(山形市)</p>	<p>全国</p> <p>●農林水産大臣賞 會田 次郎(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 山形市立南小学校</p> <p>●優秀賞 花山 伶奈(寒河江市) 堀野 佑衣(山形市) 小野寺百茄(鶴岡市)</p>

第43回	第42回	第41回	第40回	第39回	第38回
<p>山形県 ●県知事賞 柴田 暎(山形市) 佐藤 椰(庄内町) 手塚 大地(米沢市) ●県中央会会長賞 杉浦 凜(米沢市) 原田 昊土(鶴岡市) 丸谷 亮太(鶴岡市) ●優秀賞 峯田 孝誠(米沢市) 齋藤 夢佳(村山市) 土田 覇瑠(村山市) 天野 悠都(村山市) 青木 舞桂(米沢市) 安部くるみ(米沢市) 加藤 花音(高島町) 本間 智妃(三川町) 高橋龍之介(南陽市) 樋口 佳汰(白鷹町) 伊藤 葵(川西市) 齋藤由希哉(高島町) 佐藤 弥桜(鶴岡市) 梅本 京香(鶴岡市) 疋田 夏海(鶴岡市) ●学校奨励賞 村山市立楯岡小学校 川西町立川西中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 安部くるみ(米沢市) 佐藤 舜太(米沢市) 鈴木 雄貴(米沢市) ●県中央会会長賞 佐藤 花音(三川町) 千田 悠悟(南陽市) 伊藤 芽琉(山形市) ●優秀賞 鈴木 萌音(山形市) 佐藤 純真(高島町) 齊藤 遥真(最上町) 阿部 瑠空(新庄市) 手塚 遥斗(高島町) 手塚 大地(米沢市) 加藤 響(大蔵村) 井上 櫻子(高島町) 星 七菜子(新庄市) 阿部 真宙(最上町) 平瀧水なお(山形市) 高橋 陸斗(山形市) 大橋 彩未(米沢市) 佐藤慶太郎(川西市) 鈴木 広美(米沢市) ●学校奨励賞 米沢市立塩井小学校 米沢市立第二中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 野川 裕太(米沢市) 高橋 悠太(天童市) 佐藤 百華(米沢市) ●県中央会会長賞 木内 春陽(東根市) 伊藤 柚葵(天童市) 松本 季子(米沢市) ●優秀賞 鈴木 あこ(庄内町) 安部くるみ(米沢市) 加藤 翼沙(高島町) 柴崎 皓大(最上町) 堀川 遙(天童市) 大場新之助(最上町) 伊藤 楓華(天童市) 大類 渚(天童市) 佐藤 里菜(米沢市) 小野 海咲(最上町) 高橋 夢月(米沢市) 山本 穂(米沢市) 竹田 勇貴(米沢市) 鈴木 里桜(米沢市) 舟山 楓夏(山形市) ●学校奨励賞 天童市立津山小学校 米沢市立第二中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 鈴木 佑佳(山形市) 佐藤虎太郎(真室川町) 吉田 ゆい(米沢市) ●県中央会会長賞 昌腹 里玖(新庄市) 伊藤 晴夏(三川町) 山口 雅乃(鶴岡市) ●優秀賞 安部くるみ(米沢市) 中川 峻(南陽市) 木内 春陽(東根市) 早坂 涼太(東根市) 川田 健太(新庄市) 笠原 莉玖(新庄市) 小下 健太(高島町) 田中 空来(寒河江市) 佐藤 弥桜(鶴岡市) 庄司潤一郎(真室川町) 加藤 朱音(米沢市) 新野 涼香(川西市) 橋本 未句(米沢市) 高野穂乃花(山形市) 伊藤 寧音(山形市) ●学校奨励賞 新庄市立萩野小学校 米沢市立第二中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 門脇 陽希(大蔵村) 後藤 芽衣(河北町) 森村 春輝(山形市) ●県中央会会長賞 軽部 翔真(寒河江市) 青木 実央(新庄市) 留守めぐみ(米沢市) ●優秀賞 後藤 天星(最上町) 早坂 颯真(東根市) 加藤 響(大蔵村) 後藤 有瑠(高島町) 伊藤准輝亜(高島町) 小澤 爽太(白鷹町) 五十嵐広大(鶴岡市) 丸山 美優(鶴岡市) 打田ゆらら(白鷹町) 荒木 怜(最上町) 八巻 怜花(山形市) 山口 雅乃(鶴岡市) 今野 佑香(米沢市) 渋江 初菜(山形市) 井上 砂城(鶴岡市) ●学校奨励賞 大蔵村立大蔵小学校 山形市立第三中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 佐々木美耀(米沢市) 高橋満里奈(新庄市) 小野寺涼太(鶴岡市) ●県中央会会長賞 阿部 聖音(酒田市) 佐藤 礼夢(鶴岡市) 安部 優香(米沢市) ●優秀賞 上林 奈央(鶴岡市) 津藤 奏(山形市) 小野幸治郎(大蔵村) 早坂 大翔(大蔵村) 安部 真桜(米沢市) 田村 健人(米沢市) 諏訪 琳音(鶴岡市) 大滝 星矢(鶴岡市) 佐藤 陽理(南陽市) 伊藤 日高(鶴岡市) 伊藤 優太(山形市) 鈴木 千絵(南陽市) 高橋真惟子(南陽市) 石原 花凛(飽海町) 清和 怜真(鶴岡市) ●学校奨励賞 大蔵村立大蔵小学校 鶴岡市立朝日中学校</p>
<p>全国 ●優秀賞 佐藤 椰(庄内町)</p>	<p>全国 ●全国農業協同組合中央会会長賞 早坂 佑羽(大蔵村) ●優秀賞 佐藤 舜太(米沢市)</p>	<p>全国 ●優秀賞 野川 裕太(米沢市) 高橋 悠太(天童市) 佐藤 百華(米沢市)</p>	<p>全国 ●全国農業協同組合中央会会長賞 後藤 天羽(最上町) ●優秀賞 吉田 ゆい(米沢市)</p>	<p>全国 ●農林水産大臣賞 松浦蒼一郎(庄内町) ●優秀賞 門脇 陽希(大蔵村) 後藤 芽衣(河北町) 森村 春輝(山形市) ●学校奨励賞 庄内町立余目第一小学校</p>	<p>全国 ●優秀賞 小野寺涼太(鶴岡市)</p>
<p>山形県 ●県知事賞 遠藤 嘉乃(尾花沢市) 遠藤 真心(尾花沢市) 富樫 優有(山形市) ●県中央会会長賞 佐藤 瑛太(尾花沢市) 石山 万莉(尾花沢市) 加藤百合亜(新庄市) ●優秀賞 安彦咲汰朗(南陽市) 二戸 心菜(最上町) 後藤 莉渚(尾花沢市) 西塚 悠生(尾花沢市) 原田 僚(尾花沢市) 永沢 真彩(尾花沢市) 齋藤 眞輝(鶴岡市) 村上 茉生(三川町) 佐藤 結望(三川町) 高橋 伊吹(尾花沢市) 原田 陽菜(山形市) 木元素玖凜(鶴岡市) 薬科ひなた(米沢市) 松田 桃香(鶴岡市) 箱山 妃南(新庄市) ●学校奨励賞 尾花沢市立玉野小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 和田 紗采(山形市) 秋保 大地(尾花沢市) 富樫 優有(山形市) ●県中央会会長賞 加藤 朱葵(南陽市) 渡部 蓮(東根市) 石倉 妃華(山辺町) ●優秀賞 小野健太郎(山形市) 佐藤この実(鶴岡市) 佐藤 明咲(最上町) 手塚 遥斗(高島町) 浦山 結羽(米沢市) 富樫 太一(尾花沢市) 二瓶 耕太(山形市) 三坂 琉音(尾花沢市) 志村直太郎(尾花沢市) 澤 悦菜(高島町) 渡邊 和哉(山形市) 齋藤 桃々(山形市) 松田 桃香(鶴岡市) 鈴木 里桜(米沢市) 箱山 妃南(新庄市) ●学校奨励賞 山形大学附属小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 鈴木 大智(高島町) 後藤 早希(東根市) 佐藤 龍心(鶴岡市) ●県中央会会長賞 安野 世那(尾花沢市) 渡部 蓮(鶴岡市) 村山 亜弥(山辺町) ●優秀賞 加賀山 蒼(鶴岡市) 三坂明日樂(尾花沢市) 山川 大翔(山形市) 石山 裕士(尾花沢市) 伊藤 愛陽(尾花沢市) 高橋 悠太(天童市) 菅野 柚杏(尾花沢市) 齋藤 美維(鶴岡市) 佐藤 陽菜(尾花沢市) 佐藤 樹杏(鶴岡市) 阿部 心暖(河北町) 齋藤 香奈(山形市) 齋藤 遥奈(山形市) 石川 妃咲(山形市) ●学校奨励賞 尾花沢市立尾花沢小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 熊谷飛悠吾(尾花沢市) 伊藤 拓磨(尾花沢市) 鎌田 龍也(山辺町) ●県中央会会長賞 金内 大和(鶴岡市) 伊藤 未希(尾花沢市) 工藤 千慧(山形市) ●優秀賞 石山 竜成(最上町) 松田 紗和(鶴岡市) 高橋 晴(最上町) 星 七菜子(新庄市) 笠原 未羽(最上町) 柴崎 大和(尾花沢市) 齋藤 詩歩(鶴岡市) 原田 麗(尾花沢市) 大江 誓羅(尾花沢市) 稲村 大和(大蔵村) 田中 未咲(山形市) 石澤 元乾(山辺町) 田辺 理紗(飯豊町) 中島 彩(山形市) 佐藤 龍心(鶴岡市) ●学校奨励賞 尾花沢市立鶴子小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 三嶋 優(尾花沢市) 佐藤ひより(山形市) ●県中央会会長賞 鈴木 佑奈(石田町) 遠藤 陸冬(尾花沢市) ●優秀賞 星川 葵(尾花沢市) 原田 結奈(尾花沢市) 星川 椿(尾花沢市) 矢作 結母(尾花沢市) 富樫 智花(山形市) 小野 慈和(尾花沢市) 今野 泰成(尾花沢市) 五十嵐雄汰(鶴岡市) 佐藤 夏都(鶴岡市) 菅藤 心菜(尾花沢市) ●学校奨励賞 尾花沢市立福原小学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 阿部 大翔(尾花沢市) 二瓶 寛太(山形市) 平間 杏奈(山形市) ●県中央会会長賞 江刺さくら(尾花沢市) 早坂 美羽(尾花沢市) 本澤 育実(山形市) ●優秀賞 五十嵐羽琉(鶴岡市) 堀江 星琉(尾花沢市) 笹原 月吹(尾花沢市) 佐藤 愛心(村山市) 佐藤 なお(鶴岡市) 渡辺 成美(尾花沢市) 鈴木 来春(尾花沢市) 齋藤 亜子(尾花沢市) 菅藤 優成(尾花沢市) 佐藤 花玲(鶴岡市) 井上 楓(山形市) 山口 桃佳(山形市) 枝松 伶奈(山形市) 藤原 優衣(山形市) 齋藤 穂歌(山形市) ●学校奨励賞 尾花沢市立尾花沢小学校 山形市立第九中学校</p>
<p>全国 ●優秀賞 遠藤 嘉乃(尾花沢市) 遠藤 真心(尾花沢市)</p>	<p>全国 ●文部科学大臣賞 井上 花帆(尾花沢市) ●優秀賞 富樫 優有(山形市) ●学校奨励賞 尾花沢市立尾花沢小学校</p>	<p>全国 ●優秀賞 鈴木 大智(高島町)</p>	<p>全国</p>	<p>全国</p>	<p>全国 ●優秀賞 平間 杏奈(山形市)</p>

作 文 部 門

図 画 部 門

第43回

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール審査経過の概要

■応募数

作文：316点
 図画：859点 合計 1,175点

区分	1部	2部	3部	計
作文部門	86点	136点	94点	316点
図画部門	462点	349点	48点	859点

■審査

(1) 県予選審査期日

作文部門 平成30年10月23日(火)
 図画部門 平成30年10月19日(金)

(2) 全国コンクール審査期日

作文部門 平成30年11月20日(火)
 図画部門 平成30年11月21日(水)

(3) 県コンクール審査期日

期日：平成31年 1月17日(木)
 (作文・図画部門合同で開催)

■審査委員

【県コンクール】

作文部門 (5名)

審査委員長 佐藤 昌彦 (山形大学附属小学校 校長)
 齊藤 厚志 (天童市立第二中学校 教頭)
 櫻井 真理 (東根市立大富中学校 教諭)
 芦田 遥 (山形市立桜田小学校 教諭)
 高橋 夏奈 (南陽市立中川小学校 教諭)

図画部門 (3名)

審査委員長 西塚 裕樹 (東根市立第一中学校 校長)
 大内 孔司 (山形市立西小学校 教頭)
 佐竹真理子 (山形市立明治小学校 教諭)

■審査結果

(1) 全国コンクール (県内入賞者数)

・優 秀 賞 作文部門1名
 図画部門2名

(2) 県コンクール

・山形県知事賞 作文部門3名/図画部門3名
 ・山形県農業協同組合中央会会長賞
 作文部門3名/図画部門3名
 ・優 秀 賞 作文部門15名/図画部門15名
 ・学 校 奨 励 賞 作文部門2校/図画部門2校

■表彰式

期日：平成31年2月10日(日)
 会場：山形市「山形国際ホテル」

年 度	部 門	1 部	2 部	3 部	合 計
13 (第26回)	作文 図画	45 731	143 408	91 16	279 1,155
14 (第27回)	作文 図画	91 688	98 417	132 23	321 1,128
15 (第28回)	作文 図画	87 771	82 589	189 30	358 1,390
16 (第29回)	作文 図画	50 449	157 468	129 29	336 946
17 (第30回)	作文 図画	67 523	87 496	156 37	310 1,056
18 (第31回)	作文 図画	33 429	217 499	227 29	477 957
19 (第32回)	作文 図画	44 488	117 418	225 27	386 933
20 (第33回)	作文 図画	58 550	84 412	231 27	373 989
21 (第34回)	作文 図画	77 521	95 376	235 26	407 923
22 (第35回)	作文 図画	68 531	151 308	196 67	415 906
23 (第36回)	作文 図画	56 531	66 290	266 32	388 853
24 (第37回)	作文 図画	51 424	61 309	211 36	323 769
25 (第38回)	作文 図画	56 450	83 372	150 19	289 841
26 (第39回)	作文 図画	95 353	134 382	150 19	379 754
27 (第40回)	作文 図画	122 353	167 370	178 45	467 768
28 (第41回)	作文 図画	124 464	165 361	121 64	410 889
29 (第42回)	作文 図画	133 500	161 344	86 48	380 892
30 (第43回)	作文 図画	86 462	136 349	94 48	316 859

◆第43回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール募集要領◆

1. 趣 旨

本コンクールは、JAグループがすすめる「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、これからの食・農・地域を担う次世代の子どもたちに、お米・ごはん食、稲作など、日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた水田農業全般についての学びを深めてもらうとともに、子どもたちの優れた作品を顕彰することを通じて、お米・ごはん食・日本食の重要性を広く周知することを目的として実施する。

2. 課 題 (作文・図画両部門共通)

毎日のごはんでおいしかったことや家族とのコミュニケーション、お米・ごはん食に関しての思い出や考えたことなどを素直な気持ちで自由に表現して下さい。

3. 応募資格

小学校および中学校に在籍する児童・生徒。
特別支援学校の小学部、中学部。

4. 応募規格 (枚数・大きさ)

【作文部門】

- 1部 小学校1年生～3年生 (400字詰め原稿用紙2枚以内、またはマス目の大きい原稿用紙で800字以内)
- 2部 小学校4年生～6年生 (400字詰め原稿用紙3枚以内)
- 3部 中学校1年生～3年生 (400字詰め原稿用紙4枚以内)

(注)作文用紙1枚目の1行目に作品の題名、2行目に学校名、学年、氏名、3行目から本文を書き出してください。

(注)本人による直筆を原則とし、パソコンなどにより作成した原稿は応募不可とします。ただし、視覚・手に障害のある児童・生徒については、その旨を特記事項として応募票の欄外に記述した場合のみ、パソコンなどで作成した原稿の応募を認めます。

【図画部門】

- 1部 小学校1年生～3年生
 - 2部 小学校4年生～6年生
 - 3部 中学校1年生～3年生
- B3判、もしくは四つ切りの市販画用紙を使用。画材はとくに制限しません。

5. 応募規則

- (1) 課題にそった作品を対象とします。
- (2) 他のコンテストに応募していない作品に限ります。
- (3) ひとりで1部門に2点以上の応募はできません。2点以上応募の場合は、**2点とも審査対象外となる場合があります。**
- (4) 図画作品でポスター形式(標語・キャッチフレーズ文字の入ったもの)のものは応募できません。
- (5) 学校で応募の際は、別添の推薦名簿(作文部門6ページ、図画部門7ページ)を切り取りもしくはコピーしたうえで記入し、必ず添付してください。**コピーする場合は、必ずA4サイズでコピーしてください。**
- (6) 作品には、1点ごとに次の事項を記入した応募票(5ページ)をつけてください。つける位置は最後のページの裏面、図画は裏面中央とします。①作品の題名②氏名・性別③学校名・学年・組④学校の所在地(郵便番号・電話番号)⑤本人の住所(郵便番号・電話番号)⑥JA(農業協同組合)名
- (7) 全国コンクールの大臣賞および全国農業協同組合中央会長賞入賞作品は平成31年2月に返却予定です。なお、作品の著作権は全国農業協同組合中央会および山形県農業協同組合中央会に帰属します。山形県コンクールの山形県知事賞および山形県農業協同組合中央会会長賞受賞作品は、協同の杜「JA研修所」に1年展示後、平成32年2月上旬に返却予定です。
- (8) 本コンクールの作品応募に際して提供された個人情報は、承諾なく第三者に提供しません。ただし、入賞者については入賞発表や表彰式などのほか、広報媒体への露出や作品展示などの広報活動で公表する場合があります。

6. 締切日

平成30年9月30日(金) ※必着

7. 全国段階との関連

- (1) 県段階で予選審査を行い、各部門各部門ごとに数点を全国コンクールに推薦します。
- (2) 全国コンクール入賞作品以外(優秀賞除く)の作品を対象に、山形県コンクール審査を行い、山形県段階の入賞作品を決定します。

8. 審査員

【全国コンクール】

- 審査委員長 中村 靖彦氏(東京農業大学客員教授、農政ジャーナリスト)
- 作文部門 設楽 敬一氏((公社)全国学校図書館協議会理事長)
竹村 和子氏((公社)全国学校図書館協議会常務理事・研究部会)
堀米 薫氏(児童文学作家、(一社)日本児童文学作家協会理事)
- 図画部門 岡村 泰成氏(美術家集団「Moss Spirits」代表、日本美術家連盟 会員)
小柳津 須看枝氏(日本美術家連盟会員、元サロン・ド・トゥキョー運営委員)中馬 誠二氏(季風会同人)
西巻 茅子氏(絵本作家、(一社)日本児童出版美術家連盟)

【山形県コンクール】

県教育庁および小・中学校教員(作文部門5名、図画部門3名)

9. 審査基準

別添審査基準(作文部門3ページ、図画部門4ページ)による。

10. 賞

【全国コンクール】

- (1) 内閣総理大臣賞 作文・図画部門各1名——計2名
賞状と副賞(記念盾およびお米券、記念品)
- (2) 文部科学大臣賞 各部門各部門ごとに1名——計6名
賞状と副賞(お米券および記念品)
- (3) 農林水産大臣賞 各部門各部門ごとに1名——計6名
賞状と副賞(お米券および記念品)
- (4) 全国農業協同組合中央会会長賞 各部門各部門ごとに1名——計6名
賞状と副賞(お米券および記念品)
- (5) 優 秀 賞 各部門各部門ごとに15名——計90名
賞状と副賞(記念品)
- (6) 学 校 奨 励 賞 内閣総理大臣・文部科学大臣・農林水産大臣
各賞受賞者所属校——計14校
賞状

【山形県コンクール】

- (1) 山形県知事賞 各部門各部門ごとに1名——計6名
賞状と副賞
- (2) 山形県農業協同組合中央会会長賞 各部門各部門ごとに1名——計6名
賞状と副賞
- (3) 優 秀 賞 各部門各部門ごとに5名——計30名
賞状と副賞
- (4) 学 校 奨 励 賞 各部門各部門ごとに1校——計4校
賞状と副賞

11. 入賞発表・表彰式(作文・図画両部門共通)

【全国コンクール】

- (1) 入賞発表 平成30年12月上旬
- (2) 表 彰 式 平成31年1月12日(土)
(入賞校、入賞者宛通知します。)

【山形県コンクール】

- (1) 入賞発表 平成31年1月下旬(予定)
- (2) 表 彰 式 平成31年2月上旬(予定)
(入賞校、入賞者宛通知します。)

12. 主 催

農業協同組合/都道府県農業協同組合中央会/全国農業協同組合中央会

13. 受付窓口および問合せ先

- (1) 県内の各JAを受付窓口とします。
- (2) 県段階は次にお問い合わせください。

〒990-0042
山形市七日町三丁目1番16号
山形県農業協同組合中央会(JA山形中央会)
総務農政部「作文・図画コンクール」係
(担当:山口)
TEL: 023-634-8114 FAX: 023-633-1754

